

# 第1学年 算数科学習指導案

日 時 平成25年10月9日(水) 5校時  
 場 所 1年生教室  
 児 童 男1名  
 授業者 山 口 有 子

## 1 単元名

○ 12 たしざん(東書「あたらしいさんすう 1」)

## 2 単元について

### (1) 児童について

児童は、算数の学習に非常に意欲的に取り組んでいる。問題場面を把握してブロックの操作をしたり、自分の考えを発表したりすることができるようになってきている。

しかし、意見を練り合う機会や多様な考えに触れさせる機会が少なく、自分の考えを整理して話す力を育てることが難しい状況にある。

### (2) 単元・教材について

本単元では、1位数同士の繰り上がりのある加法計算について学習していく。繰り上がりのある計算に取り組むのは本単元が初めてである。

本単元で扱う「たしざん」は、学習指導要領において以下のように位置づけられている。

第1学年A(2) 加法, 減法  
 (2) 加法及び減法の意味について理解し, それらを用いることができるようにする。

児童は、10を分解的にとらえたり、10を合成的にとらえたりする学習をしている。また、繰り上がりのない1位数同士の加法、繰り上がりのない2位数+1位数、3口の加法について学習した。本単元では、既習事項を基に、「10のまとまり」に着目し、自分の考えを順序立てて説明できるように指導していく。

### (3) 指導にあたって

本単元の指導にあたっては、1位数同士の繰り上がりのある加法計算では、被加数、加数のいずれかに着目した方の数の10に対する補数を瞬時にとらえることが大切になる。そのために、ブロック操作において、ケースを使い、あといくつで10になるかを視覚的に捉えやすくしていく。

本時では、初めて被加数が加数より小さい加法計算に接することになる。「まなぶ」では2つのケースを用いて、どちらかのケースにブロックを動かして10のまとまりをつくることを確認する。そして、「つかう」では、加数が被加数より大きいときは、被加数を分解した方が10のまとまりをつくりやすいことに気づき、どちらを分解するか自分で判断できるようにしたい。

## 3 単元の目標と単元構想

### (1) 単元の目標

○ 1位数同士の繰り上がりのある加法計算の仕方を考え理解し、確実にできるようにするとともに、それを用いることができるようにする。

### (2) 単元構想

時	目標	「教える」留意点	「考えさせる」留意点
第3時	知1位数同士の繰り上がりのある加法計算で、加数分解の計算の仕方の理解を確実にする。	8+3の加数分解の計算の仕方	8+5の計算の仕方
第4時	知1位数同士の繰り上がりのある加法計算で、加数分解の計算の仕方の理解を確実にする。	7+4の加数分解の計算の仕方	
第5時	技1位数同士の繰り上がりのある加法計算で、加数分解の計算の仕方の理解を確実にする。		
第6時 (本時)	数1位数同士の繰り上がりのある加法計算で、被加数を分解して計算する方法(被加数分解)があることを知り、計算の仕方についての理解を深める。	・被加数を分けるブロック操作の仕方 ・被加数を分ける計算の手順	・2つの考えの共通点
第7時	技1位数同士の繰り上がりのある加法計算で、被加数を分解して計算する方法(被加数分解)があることを知り、計算の仕方についての理解を深める。		

#### 4 本時の指導


(1) 目標

1位数同士の繰り上がりのある加法計算で、被加数を分解して計算する方法（被加数分解）があることを知り、計算の仕方についての理解を深める。

(2) 学習活動における評価規準

【数学的な考え方】1位数同士の繰り上がりのある加法計算で、被加数を分解して計算する方法（被加数分解）を考え、操作や言葉などを用いて表現することができる。

(3) 展開（6/12 p.95~101）

段階	学習過程・学習活動	指導上の留意点 ●評価
導入 8分	<p><b>1 もんだい</b></p> <p>たまごはあわせてなんこですか。</p> <p>(1) 立式し、今までの計算との違いを考える。 (2) たまごを動かして答えを出す。 (3) 課題を設定する。</p> <p>まえのすうじをわけてけいさんしてみよう。</p>	 <ul style="list-style-type: none"> <li>・2通りの動かし方があることに気づかせる。</li> <li>・被加数を分ける方法に気づかせ、課題につなげる。</li> </ul>
展開 32分	<p><b>2 まなぶ</b></p> <p>(1) 被加数を分ける方法を知る。 (2) ノートに計算の仕方を書く。  <math display="block">\begin{array}{r} 3 + 9 = 12 \\ \swarrow \searrow \\ 2 \quad 1 \end{array}</math>  (3) 学習のまとめをする。</p> <p>まえのすうじをわけてもけいさんできる。</p> <p><b>3 たしかめる</b></p> <p>(1) <math>3 + 8</math>をブロック操作で解く。 (2) 加数分解の方法と比較する。</p> <p>(3) 式を書いて確認する。</p> <p><b>4 つかう</b></p> <p>(1) <math>\triangle 9</math>を全問解く。 (2) 文章題作りに挑戦する。</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ブロックを使って計算の手順を確認する。</li> </ul> <p>&lt;教える留意点&gt;</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・被加数を分けるブロック操作の仕方</li> <li>・被加数を分ける計算の手順</li> </ul> <p>●被加数を分解して計算する方法（被加数分解）を考え、操作や言葉などを用いて表現することができる。</p> <p>&lt;考えさせる留意点&gt;</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・2つの考えの共通点</li> </ul> <ul style="list-style-type: none"> <li>・被加数を分ける計算の仕方に慣れるために、たくさんの問題に挑戦する。</li> <li>・加法の場面を想起し、問題を作ることができるようにする。</li> </ul>
終末 5分	<p><b>5 ふいかえる</b></p> <p>(1) 本時の学習についてふり返り、感想を発表する。 (2) 次時の授業について見通しを持つ。</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・本時の成果や自分のがんばりをふり返り、次時への意欲とする。</li> </ul>